シドニー小学校訪問＆語学研修プログラムに参加して

ホストファミリーの皆さんと

　私は英会話が得意ではありません。しかもここ何年も海外旅行をしておらず、不安がいっぱいでした。
しかし、「自分から話してみること」「わからないことはすぐに聞くこと」を心がけて生活するようにしていました。
　ハンドメイドに興味があったので、作ってくださった食事について、作り方を質問したり、「これはめずらしい！」とか「こういう味、好きだなー」といったことから会話ができるようにしました。
自分の考えを英語で話すより簡単ですし、会話が広がります。

　子ども達の寝る時間は早く、８時前にはベッドに行きます。お母さんが絵本を読み聞かせたりして、ふれあいの時間を作っているようです。ほのぼのとした光景です。この校区の子ども達はたくさんの習い事をしていて、朝学校に行く前にもピアノやフルート、ヴァイオリンなどを習っているようです。
日本の子どもたちも塾や習い事をしている子がいますが、それと同じ位教育には関心が高いようです。
　子ども達との会話は、あまり困りませんでした。単語とゼスチャーで乗り切った感じです。でもうなずいて聞いてくれたり、手を引っ張って教えてくれたり・・・。伝えよう、わかろうとする気持ちがコミュニケーションを築いていくということを身にしみて感じました。
　最後の日は、マンリーで購入した材料を使って、記念の「お好み焼き」を作りました。
一番下のお子さんは口にしませんでしたが、他の皆さんは喜んで食べてくださいました。何か一つでもできる日本的なことを日々考えてやってみた次第です。

Balgowlah Heights Public School 訪問

☆学習・生活の様子☆

　子ども達の学習に対する興味・関心は高く、「次はここに集まって活動を始めましょう」というと、低学年であっても素早く行動していました。
　質問についても、積極的にしてきます。
日本について聞きたいことの中に、「みんな勉強は熱心ですか？」「怒られる子はいますか？」など様々でした。逆にＡＬＴの方が教室に来た時も、子ども達は同じような質問をするなぁと感じました。

　こちらの学校では、日本で言う「中休み」にあたる時間帯に Recess というお菓子付きの休み時間があります。子ども達はカンティーンで買ったお菓子や持ってきた果物を食べます。
「学校にお菓子！！？」と思いますが、子ども達は食べる時間帯の」けじめや、後片付けについてもきちんと躾けられており、授業中に食べる・・・といったことはないようです。
　これは、学校から配られるお菓子です。ヴィヴィットな色合いに、ちょっと引きましたが、記念に写真に収めてきました。

５年生の理科の指導書。この時間は、「電気の通り道」の学習をしていました。日本では 3～4 年生で行う授業ですが、内容がものすごく専門的であることに驚きました。

子ども達は自宅から懐中電灯を持ってきて、それがどういう仕組みで明かりがつくようになっていくかを調べる学習をしていました。

日本の小学校であれば、同じ教材を使い、その中からさまざまな気づきを生み、問題を見出すといった学習展開です。その利点は、同じものを使って発見した方が、微妙なデータの違いで混乱しないからです。学習によっては、発展的に家庭から集めたものから見つけていくということもしますがその学習の目標によりけりです。

ですから、それぞれ仕組みの違う懐中電灯からどうやって回路に導こうとするのか大変興味がありました。

細かいやり取りは聞き取れませんでしたが、おおむね普遍的なこと、原理、などについては先生が教える流れだったように思います。発見させる時間の保障と、発見したことをお互いに交流し合うことはどこの学校でも行っているといえます。

☆先生と児童のようす☆

先生は、「先生」という立場をしっかり持っています。子ども扱いせずしかる時はびしっとして、話し方も、親とは違う兄弟でもない「先生」という立場を貫いているように見えます。日本の学校では、低学年をもつと特にしゃがんで話を聞いたり、子どもの目線まで腰をかがめて話をしますが、それがあまり見られません。いつも立って話をしている場面が多かったように思います。何かできないことがあっても、自分から「わからない」とはっきり言うし、先生にすぐ「できないー！」といって泣く子はほとんど見られませんでした。ホストファミリーのお子さんもそうですが、できるだけ自分の力でやるように躾けている感じがします。きっとできたときには大きなプレゼントがあると思いますが・・・。

これは、学習用具を入れるカバン。
机に引き出しはありません

６年生のプレゼンの授業
自分の考えを積極的に発表しています

教室掲示なども、アボリジニのモチーフを使った飾りや、子どもの手形など、色使いが鮮やかで日本でも真似したいものがいくつかありました。

☆子ども達と日本語☆

こちらの学校では、低学年から日本語の授業を行っています。５・６年生ではないそうです。そこが日本との大きな違いです。

５・６年生に英語が導入されるずっと以前にこんな話を聞いたことがあります。

低学年であればある程、音や体の動きで英語を覚えていくけれど、学年が上がるにつれて、英語を正確に訳そうという気持ちが強くなってくる。このことが「わからない！うまく話せない」という壁を作ってしまうことがあるから、あえて単語をアルファベットで書かずに「音」で覚えるように持っていく方法も大切だ・・・と。

訪問した学校の子ども達は、「ももたろう」の台本をト書きまでも暗唱しており、挿入歌についても楽しんで学習していたように思えます。ＣＤと先生の日本語での授業であまり抵抗感なく見についている感じがしました。

折り紙と折り染めの授業風景

習字の授業を終えて感じたこと・・・

研修に行く前、私は筆の他に歯ブラシ、厚紙、紙、小筆・・・と筆の代わりになるようなものも持って行きました。いろいろなもので書くことで、線の風合いが違い楽しく書けると思ったからです。

実際に行って、それぞれで書いているところを見てもらうと、子どもたちは「毛筆」に大変興味を盛ったようです。それもそのはず、子供たちにとって筆で書くことは大変珍しい体験なのだから・・。ホストファミリーの子どもとも、携帯用の筆ペンで絵を書いたりしました。筆のなんともいえないやわらかい雰囲気と、書き直しが効かない緊張感、ちょっぴり感じてくれたかな？と思います。

最後に・・・

出発の時間が近づくにつれ、いろいろな思いがあふれてきました。

たった１週間だったのに、いろいろしていただいた心遣いに胸がいっぱいになってうまく発音できませんでした。

現地でお世話になった先生に教えていただいたフレーズです。

「Thank you very much for your kindness.

Can you say Good-Bye to everyone for me?」